

TOSHIN STUDY^{New48}

東神油槽船株式会社 平成25年2月26日 B Y安全管理室

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-5-14 入江ビル7階

TEL03-3270-3033 ・ FAX03-3241-2812

【いろいろあつての再々出発】

久しぶりの東神スタディとなります。また、今回からメインとなる執筆者も変わることとなりました。よろしくお願いいたします。

リニューアルを機に・・・

今までの本紙の内容と少し路線を変えて、当分は安全に関する基礎の部分に触れていこうと思っています。最初ですから、その理由について説明します。

ひと昔前、といっても20年ほど前までのことですが、まだGPSもなく、精度の悪いロランやデッカ、オメガ、あるいはNNS Sといった航海計器に頼っていた頃は、船の位置を海図に記入するのも今ほど簡単ではなく、また他の船の動静を把握するのも、レーダーにペンで位置を記入したり、コンパス方位を一定間隔で確認したりする必要があり、時間と手間がかかるものでした。ところが、現在はGPSの普及やレーダー映像のコンピューター処理化により、それら安全運航に費やす1回あたりの作業時間は大幅に短縮されています。また、機関に関しても、機器の信頼性が向上するとともに、M0仕様が広く普及してきました。

甲板部の航海中の業務内容(イメージ)

	30年前		現在
↑ 時間数 ↑ 運 航 中 の 業 務	一定時間毎の位置記入	GPS、電子海図の普及	一定時間毎の位置記入
	他船舶の動静把握	レーダーの高性能化	他船舶の動静把握
	見張り		見張り
	他船とのVHF交信	AISによる相手船の名指し	他船とのVHF交信
			ISM対策
			他の追加の安全対策

しかし、費やす時間が減ったとはいっても、例えば位置確認の間隔が15分毎から1時間毎になったわけではなく、相手船の動静を確認しなくて良くなったわけでもなく、やっている項目は基本的に同じのはずです。

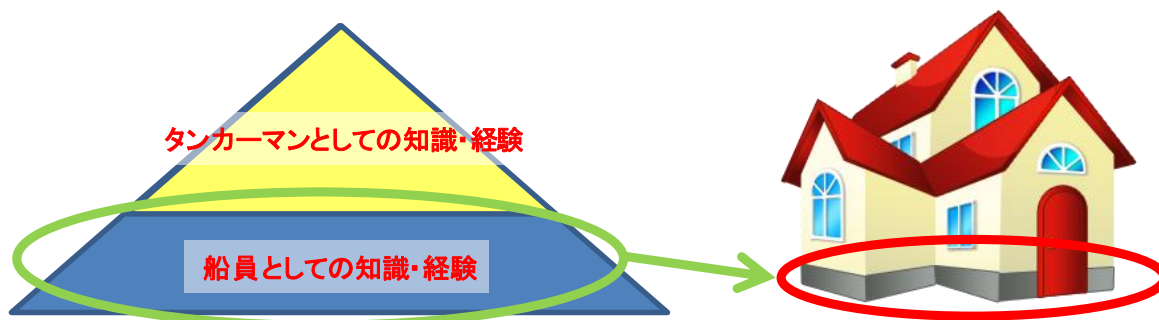
さらに、ISMの取得や、各種安全対策の追加により、航海中や荷役中に実施しなければならぬ項目は増加しています。しかも、近年追加された事項には、チェックリスト等の記録が必要な内容が多く、手間がかかるものばかりです。

これらの安全対策は事故の減少に結びついていますが、今後も項目が増えることはあっても減少することはない、と思っています。結果として、船員のみなさんには、「あれもやれ、これもやれ」状態になってきていると思います。

少し、話の観点を変えましょう。武道家が練習をするとき、何から始めるでしょう？運動部を経験された方なら想像できると思いますが、準備運動→基礎練習（防御、攻撃の基礎）→本格練習と毎回実施すると思います。私は、この流れが非常に大事なことだと思います。どんな新しいことを行うにしても、毎日の基礎の積み重ね、基礎の鍛錬を行う、ということです。基礎の反復練習がとても大切なことを、武道家という達人は知っているのです。

知識や経験は、私はピラミッド的なものだと考えています。しかも、人は良くも悪くも記憶が薄れていく生物ですから、その基礎となる部分を常に意識しておくか、体に染み込むまで反復しておかないと、だんだん薄いものになってしまい、支えきれなくなってしまう可能性があります。場合によっては、ほんのひとつのヒビが、みなさんが長い時間をかけて築き上げてきたピラミッドを簡単に崩してしまう可能性があります。崩れたら、あとが大変です。家を建てる時のことを想像していただければ判りやすいと思いますが、新しい土地に新築するより、建て直しの方がはるかに時間やコストがかかります。人の信用もそうですよね？

みなさんは、タンカーに乗船されているわけですから、当然のごとく「タンカーマン」（または「タンカーウーマン（弊社にはいませんが）」）です。でも、その基礎にあるものは何でしょうか？船乗り（船方と言う方もいらっしゃいます）ですよ。船乗りとして、船を安全に運航する、船を大事に整備する、住居と職場が一緒になった環境で楽しく規律正しく生活するわけです。それが、船乗りの「基礎」だと思います。



みなさんは日々の業務が忙しいので、毎日基礎を反復、というわけにはいかないと思いますが、本紙を通じて基礎を思い出していただけたらと思います。今後ここに書いていくものは、特段新しいものではなく、その大部分はみなさんが実践しているか、無意識でやっているものになると思います。ですが、基礎をより強固にするため、本紙を見て自分の行動を振り返っていただけたら、幸いに思います。

(完)